



平成30年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年9月6日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東  
 コード番号 9636 URL http://www.kin-ei.co.jp  
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)田中 耕造  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名)好井 裕一 (TEL)06(6632)4553  
 四半期報告書提出予定日 平成29年9月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年1月期第2四半期の業績(平成29年2月1日～平成29年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年1月期第2四半期	1,836	7.9	141	29.0	142	30.1	88	21.7
29年1月期第2四半期	1,701	3.5	109	13.0	109	10.1	73	24.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年1月期第2四半期	31.88	—
29年1月期第2四半期	26.19	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年1月期第2四半期	4,826	1,893	39.2
29年1月期	4,861	1,834	37.7

(参考) 自己資本 30年1月期第2四半期 1,893百万円 29年1月期 1,834百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年1月期	—	0.00	—	—	—
30年1月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年1月期の業績予想(平成29年2月1日～平成30年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,570	0.8	200	8.5	200	7.2	120	16.2	43.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年1月期2Q	2,821,000株	29年1月期	2,821,000株
30年1月期2Q	31,925株	29年1月期	31,590株
30年1月期2Q	2,789,215株	29年1月期2Q	2,789,703株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢の改善を受けた個人消費の持ち直しに加え、設備投資も堅調に増加し、緩やかな景気回復基調のうちに推移しました。

この間、当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図りました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、映画では、“美女と野獣”がヒットしたほか、“名探偵コナン”“モアナと伝説の海”“SING/シング”“ラ・ラ・ランド”“ドラえもん”“パイレーツ・オブ・カリビアン”“22年目の告白”“ワイルドスピード ICE BREAK”“昼顔”などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。また、「あべのハルカス」で集客力を増した阿倍野地区への来訪者を「あべのアポロシネマ」へ誘致するため、ハルカスをはじめ近鉄グループやその他の周辺施設と連携し、積極的な販売促進活動を展開しました。さらに、顧客基盤の充実を図るため、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員獲得に努めたほか、事前のクレジットカード決済が不要な座席予約システムの利便性についても周知が進み、好評を得ました。また、本年3月には、新スクリーン「プラスワン」をオープンし、効率的な運用を図りました結果、劇場事業では前年同期を大幅に上回る成績となりました。また、娯楽場事業におきましても、劇場事業と一体となった集客を継続して推進いたしました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して17.0%増の939,055千円となり、営業原価控除後では68,479千円のセグメント利益（前年同期比218.5%増）となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロビルにおいて、2階及び3階共用部照明器具のLED化工事、低層階雑排水管更新工事等を実施し、ビルの経費節減と機能向上を図りました。ルシアスビルにおいても、かねて計画的に実施してきた防犯カメラ設備更新・増設工事を継続し、空調制御システム及び空調機の更新を段階的に進めるなど、より安全・快適なビルづくりを推進したほか、本年1月に新設した15階の眺望のよい屋内ステージ「あべのAステージ・スカイコート」、リニューアルした1階正面広場の「あべのAステージ」の運営をそれぞれ本格的に開始しました。また、アポロ、ルシアス両ビルにおいてフリーWiFiスポットを設置し来館者の利便性向上を図ったほか、劇場事業と連携した誘客活動を進めました。さらに、賃貸収入の確保に向けて、空室部分への後継テナント誘致に注力しました結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は前年同期に比較して0.2%減の897,343千円となり、営業原価控除後では221,583千円のセグメント利益（前年同期比0.1%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期に比較して7.9%増の1,836,399千円となりました。一方、増収に応じて営業原価が増加しましたが、諸経費全般に亘って鋭意節減に努めました結果、営業利益は141,365千円（前年同期比29.0%増）となり、経常利益は142,047千円（前年同期比30.1%増）、四半期純利益は88,921千円（前年同期比21.7%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、固定資産の減価償却等により前期末に比較して35,142千円減少し、4,826,320千円となりました。

負債は、未払金の減少等により、前期末に比較して94,798千円減少し、2,932,333千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益など利益剰余金の増加額が配当金の支払い等による減少額を上回ったため、前期末に比較して59,655千円増加し、1,893,987千円となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は営業活動による収入が投資活動による支出及び財務活動による支出を上回ったため、前事業年度末に比較して34,639千円増加（50.9%増）し、102,639千円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動で得られた資金は、341,644千円で前年同期と比較して147,213千円増加しました。これは、流動資産の増加等によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で使用した資金は、300,561千円で前年同期と比較して129,453千円増加しました。これは、前年同期に減少した短期貸付金が、本年は増加したこと等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で使用した資金は、配当金の支払等により6,443千円となりました。短期借入金の前年同期よりも多く増加したため、前年同期と比較して10,086千円支出額が減少しております。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、「あべのハルカス」をはじめ魅力ある施設が揃った阿倍野地区への来訪者は、高水準で推移することが見込まれます。シネマ・アミューズメント事業部門では、阿倍野地区唯一の映画館である「あべのアポロシネマ」への一層の誘客を目指し、「あべのハルカス」「てんしば」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」など周辺施設との共同販売促進策を推進いたします。また、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員向けに、メールマガジン等により作品情報を提供し、誘客に努めます。さらに、座席リニューアル工事を計画に沿って実施するなど、サービスの充実に力を注ぎます。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持向上による賃貸収入の確保に努めるのはもとより、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めますほか、今秋アポロビルの耐震補強工事に着手、平成31年の完工を目指すなど、ビルのさらなる機能向上を図り、安全で快適な環境づくりに努めてまいります。加えて、劇場事業との連携の推進、「あべのAステージ」・「同スカイコート」の運営を通じた街の賑わいの創出により、一層の集客に注力するなど、安定した経営基盤の確立に格段の努力を傾けてまいり所存であります。

通期の予想につきましては、売上高は3,570百万円（前期比0.8%増）、営業利益は200百万円（前期比8.5%増）、経常利益は200百万円（前期比7.2%増）、当期純利益は120百万円（前期比16.2%増）となる見込みであります。なお、平成29年3月14日に「平成29年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益をそれぞれ10百万円増額しております。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	67,999	102,639
売掛金	100,540	94,033
商品	4,872	4,059
その他	494,598	487,953
流動資産合計	668,010	688,685
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,074,005	1,985,923
機械及び装置（純額）	40,901	44,075
工具、器具及び備品（純額）	73,759	64,908
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	-	30,000
有形固定資産合計	3,312,414	3,248,655
無形固定資産	17,211	11,424
投資その他の資産		
差入保証金	822,714	822,343
その他	41,112	55,210
投資その他の資産合計	863,827	877,554
固定資産合計	4,193,452	4,137,635
資産合計	4,861,463	4,826,320
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	118,550	166,948
短期借入金	257,500	280,000
未払法人税等	41,644	57,180
賞与引当金	12,000	15,000
その他	627,341	422,171
流動負債合計	1,057,036	941,300
固定負債		
退職給付引当金	85,399	89,145
受入保証金	1,560,957	1,576,238
資産除去債務	286,912	289,100
その他	36,827	36,549
固定負債合計	1,970,095	1,991,032
負債合計	3,027,131	2,932,333

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,350,834	1,411,861
自己株式	△108,166	△109,215
株主資本合計	1,831,023	1,891,001
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,308	2,985
評価・換算差額等合計	3,308	2,985
純資産合計	1,834,331	1,893,987
負債純資産合計	4,861,463	4,826,320

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)
売上高	1,701,665	1,836,399
営業原価	1,458,825	1,546,336
営業総利益	242,840	290,063
一般管理費	133,292	148,697
営業利益	109,547	141,365
営業外収益		
受取利息	469	519
受取配当金	103	127
違約金収入	-	866
保険差益	211	96
雑収入	145	88
営業外収益合計	929	1,698
営業外費用		
支払利息	1,323	1,006
雑支出	5	10
営業外費用合計	1,329	1,017
経常利益	109,148	142,047
特別損失		
固定資産除却損	1,389	12,579
特別損失合計	1,389	12,579
税引前四半期純利益	107,758	129,467
法人税、住民税及び事業税	46,195	51,048
法人税等調整額	△11,491	△10,502
法人税等合計	34,704	40,546
四半期純利益	73,054	88,921

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	107,758	129,467
減価償却費	176,332	172,617
退職給付引当金の増減額(△は減少)	4,845	3,745
受取利息及び受取配当金	△573	△646
支払利息	1,323	1,006
固定資産除却損	1,389	12,579
売上債権の増減額(△は増加)	17,994	6,507
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△1,009	65,749
仕入債務の増減額(△は減少)	9,313	48,398
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△85,451	△62,288
その他	470	2,211
小計	232,394	379,348
利息及び配当金の受取額	782	604
利息の支払額	△1,280	△1,002
法人税等の支払額	△37,466	△37,305
営業活動によるキャッシュ・フロー	194,430	341,644
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△265,433	△230,934
無形固定資産の取得による支出	△1,174	△2,630
短期貸付金の増減額(△は増加)	147,771	△60,305
差入保証金の増減額(△は増加)	△22,928	370
受入保証金の増減額(△は減少)	△13,416	15,281
その他	△15,926	△22,343
投資活動によるキャッシュ・フロー	△171,107	△300,561
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	15,000	22,500
長期借入金の返済による支出	△3,460	-
配当金の支払額	△27,897	△27,894
その他	△171	△1,048
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,529	△6,443
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,793	34,639
現金及び現金同等物の期首残高	125,590	67,999
現金及び現金同等物の四半期末残高	132,384	102,639

## (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(平成28年2月1日から平成28年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	802,796	898,869	1,701,665	—	1,701,665
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	802,796	898,869	1,701,665	—	1,701,665
セグメント利益	21,498	221,341	242,840	△133,292	109,547

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(平成29年2月1日から平成29年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	939,055	897,343	1,836,399	—	1,836,399
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	939,055	897,343	1,836,399	—	1,836,399
セグメント利益	68,479	221,583	290,063	△148,697	141,365

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。